

山形県公立大学法人 教育振興会会報

令和3年度 No.3
(通巻第172号)
令和4年1月20日発行
〈発行所〉
山形県公立大学法人 教育振興会
〒992-0025 山形県米沢市通町6-15-1
電話 0238(22)7330(代)
FAX 0238(22)7333
〈印刷所〉 有限会社 富士印刷

皆様の温かい御支援をいただき、学生への食料支援事業を実施しました！



キャリア支援センター便り



キャリア支援センター
エンプロイメントアドバイザー
井上 信子

私の挑戦

毎週水曜日にキャリア支援センターで管理栄養士の就職アドバイザーとしてお世話になって2年目になります。昨年来のコロナ禍で、オンラインでの就職活動が主流となりました。栄大4年生の皆さんには早めに就活に着手していただいたおかげで、内定率も高くなっています。

今年の管理栄養士求人状況を感じたことが二つあります。一つは、歯科クリニックの求人が数件あったことです。給食提供業務のある病院や高齢者福祉施設、給食委託会社などの求人は例年どおり多くありますが、先の歯科クリニックや調剤薬局、ド

ラッグストアでの管理栄養士採用など、食事提供業務をしない業態における管理栄養士の業務が拡大し、求人が増加していることを改めて感じております。また本学の学生を採用したいという採用担当者の声も伺っております。

もう一つが、全国的に乳幼児施設での求人が増えていることです。乳幼児施設には管理栄養士を必ず置く義務は現在のところありませんが、乳幼児期の成長に合わせた食事摂取とともに、食習慣の形成や食育の必要性が認識され、管理栄養士の求人増加につながっているものと思います。

いづれも先輩の管理栄養士の真摯な努力があつてのことです。米沢栄大卒業生が先駆者となり、管理栄養士の業務がさらに広がり、食事で栄養の専門の方の健康増進に貢献できることを願っております。

OGの話や公務員編を振り返って

山形県立米沢女子短期大学キャリア支援委員会 高浜 快斗

本年度も例年通りにOGの話を開く会が就職編および公務員編の両編が開催されました。自らの目的や目標に向かって邁進された結果としてある種のビジョンを実現させた輝かしい諸先輩OG方にご講話いただき、就職活動中や公務員試験対策におけるご苦労やそれを乗り越えるための工夫、現職のやりがいやキャリアアップの有無などの実体験をご教示いただくことにより、本学の在学諸君のキャリア形成支援の一助となること本会の目的であります。

本年度のOGの話を開く会は、引き続き新型コロナウイルス感染症の蔓延の中、登壇されるOG方と本学学生さんの安全上、衛生上の配慮としてオンラインでの開催となりました。対面開催と比較すれば参加者ご不便だった場面もあつたでしょうが、一方で対面開催ではできなかったことが実現した場面もありました。そのひとつは、遠方でご勤務されているOG方に登壇いただけたことが挙げられます。これまで、素晴らしい進路を勝ち取られたOG方が多くおられたとしても距離的都合上、実際のOGの話を開く会の開催にあつては山形近県にお住まいの方にしか登壇の依頼を出せずにおりました。しかし、オンラインでの開催ともあれば、物理的障壁が解消され、遠方にお住まいの素晴らしいOG方にも登壇いただけるようになりました。必ずしも輝かしい進路が山形近県にある限りませんが、同時に山形近県には、自身将来のビジョンを身近なところに限定して描きたい願ひは多く、より広い世界に羽ばたくことをも考えて欲しいと願ひます。その意味では、今回ようなオンラインでのOGの話を開く会の開催に少なからず意義があつたのではないかと思ふ処です。

進路速報

参事兼キャリア支援センター副センター長 布施 信男

途中経過にはなりますが、十二月二十日現在の進路状況をお知らせします。公務員合格者も含む就職内定率は栄大では100%、短大では昨年同期を十ポイント以上上回る六十五・九%と、コロナ禍以前の水準には戻っていないものの、健闘しています。一方、編入学試験合格者数は、進学希望者数の減少もあり延べ五十九名と前年度を下回っております。

後期に入り、当センターでは来年度就職活動本番を迎える栄大三年生と短大一年生を対象に、キャリア支援計画に基づき、各種就職支援セミナーやワークショップの開催、OGの話を開く会、公務員勉強会や模擬試験、編入学対策のための英語小論文指導などを通して、進路希望実現に向けて様々な支援を積極的に行っております。

合格等体験談

私は、入学当初から四年制大学編入学志望で、五月に情報収集を徹底的に行いました。編入学試験には英語が鍵になるということが分かり、実践問題を用いたTOEICの学習に力を入れました。様々な授業を受講する中で、「情報学」にとても興味を持ち、二年生の五月に群馬大学を挑戦することに決めました。進路を決定するまで、不安と焦り、何も手につかない時期がありました。今考えると、早めに誰かに悩みを打ち明けることも必要だったと思います。しかし、今の自分の状況を客観的に見てくださり、方向性を一緒に考えてくださった西川先生には本当に助けられました。辛い時期もありましたが、私は編入学に挑戦し、本当に良かったです。少しでも興味があるのなら、今すぐ動き始めてみてください。



山形県立米沢女子短期大学
社会情報学科
二年 阿部 美央里

就活を通って

二年生になる直前の三月から就活を始めました。すでにインターンシップに参加していた人がいる中で焦りを感じましたが、興味を持った総合職に目標を定め、就活に取り組みました。キャリア支援センター開催の講座や就活アプリ等を参考に「自己分析」に特に力を入れ、自分その希望する就職先は合っているのか、自分の強みは何かを明確にしてエントリーシートを作成しました。SPI・GAB試験や面接等の対策は、先輩方の受験報告書を参考に早い段階から始めることとで、一つひとつ丁寧に進めていくことができ、面接では緊張しても自分が思っていることを正確に伝えられるようにすることが大切です。キャリア支援センターの方々にもサポートいただきながら、自信をもって取り組んでください。



山形県立米沢女子短期大学
国語国文学科
二年 小笠原 茅奈

就活を通って

山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部 健康栄養学科
四年 梶原 紗衣

8月に介護老人保健施設ローズむらやまに内定をいただきました。就職活動を通して感じたことは、「自分の軸をみつけること」です。就活を始めた三年生の3月頃は、福祉現場での管理栄養士という漠然とした目標はあったものの、それが自分のやりたいことなのか分らないまま就活をしていました。合同企業説明会への参加や施設訪問、履歴書の提出、面接を繰り返していく中で自己分析ができ、老健（介護老人保健施設）での管理栄養士という軸を見つけていくことができました。相談にのっていただき指導して下さったキャリアセンの先生方や家族、友人の支えもあり内定をいただけたと思います。

就活に對し様々な不安があると思いますが、目標に向かって悔いのないように取り組んでほしいと思います。在学生の皆さんの進路を応援しています！



山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部 健康栄養学科
四年 梶原 紗衣

せききれい 財産相続の修羅場

老人と先妻との間に生まれた長男は、家を継ぐべく成長しました。しかし老人は、晩年に後妻との間に生まれた子を溺愛し、長男に譲った財産の一部を後妻の所生子に譲るよう迫りました。長男は父の言葉に従って権利放棄書を書き、その文書に父と共に署名しました。ところがその後、老人の長男に対する要求はエスカレートし、長男を親不孝者呼ばわりして、家業継承に必要な書籍等も含めて、長男ではなく後妻所生子に譲与するという遺言状を後妻に宛てて書きました。老人亡き後、長男が財産を取り返したところから、長期に亘る泥沼の



山形県立米沢女子短期大学
学生部長 松井 真人

新年のご挨拶と近況報告

新年あけましておめでとうございます。教育振興会の皆様にとりまして本年が素晴らしい年となりますようお祈り申し上げます。

昨年世界的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年となりましたが、前期は県内の感染状況が落ち着いたため、米短、栄養大ともに対面授業を行うことができました。その間、関係機関の協力を得て、希望する学生へのワケチン接種も行いました。しかし8月に県の注意・警戒レベルが4となったため、両大学とも10月中はオンライン授業を行いました。11月からは対面授業に戻ることができましたが、マスクの着用や教室の換気など学内での感染症対策は現在も継続しています。

そのような状況の中で、経済的に困っている学生を支援するために、松川コミュニティセンターとの共催で食料支援活動を2回実施しました。4月は地域の皆様や教職員から提供していただいた2・84トンの物資を両大学の258名の学生に配布し、11月は1・78トンの物資と日本学生支援機構の支援金を活用した2000円分の商品券を415名に配布しました。また同窓会「さわらび会」からは昼食の無料提供、県からは1人当たり県産米5キロ、米沢市からは5000円分の商品券を提供していただくなど、多方面から多大なるご支援をいただきました。学業の継続のために、このような暖かいご支援をいただけたことは、大変ありがたいことでした。このご恩返しとして、両大学ともに研究と教育を通してますます地域に貢献しなければならぬと強く感じた次第です。

本年も学生が安心して大学生生活を送ることができるよう様々な手段を講じながら大学運営をしていく所存ですので、教育振興会の皆様のお一層のご支援をお願い申し上げます。

裁判が始まりました。「老人の振るまい」といって老人没後の話の展開と、全てにひねりがなくて物語がつまらなくなる。ごくありきたりな展開じゃないか」と思われた方へ。

これは物語ではありません。鎌倉時代にある貴族の家でおきた財産相続問題です。老人が書いた文書、後妻の日記、複数回に亘って法廷に提出された訴陳状等が現存する中、修羅場が再現されます。その中のごく一部の文書を教材に選び、学生に読ませています。ありきたりな内容ですが、「貴族の世界」一般市民にとって縁遠い「雅な世界」という理解は余りにも一面的だと認識してほしくて。

山形県立米沢女子短期大学
日本史学科准教授 山田彩起子

編集後記

新年明けましておめでとうございます。2022年が皆様にとって素晴らしい年になりますように祈念いたします。

次号は卒業を控えた学生の進路体験談、進路状況をお送りする予定です。会報を発行するにあたり原稿を寄せてくださった皆様様に心よりお礼申し上げます。

(書記 原)

新任の「ごあいさつ」



山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部 健康栄養学科
講師 南 育子

調理科学の関連科目を担当する南育子と申します。

九月末に米沢市に引っ越ししてきました。これまで西日本にしか住んだことがなく、東日本に初めて住むこととなりました。私がいまだに、どこも暖かい(暑い)気候だったので、体はすっかり高温多湿に順化してしまいました。なので米沢に引っ越してから、自宅ではずっと電気ストーブにへばりつき、電気ストーブと共に室内を移動しています。しかし秋が深まるにつれて、木々が一斉に紅葉し、山々や最上川沿いの土手が赤や黄色に染まる様を見て、米沢の自然の美しさに感動しました。晴れた夜空に見える星の数と月の明るさにも驚いています。今後益々寒くなるので、雪景色を楽しみにしつつ防寒対策を徹底したいと思っています。これから豊かな自然から得られる地域の農産物とその料理について学生の皆さんと学んでいきたいと考えています。よろしくお願いたします。



山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部 健康栄養学科
講師 鈴木 美穂

今年度10月から米沢栄養大学の講師として着任いたしました鈴木美穂と申します。私は三重県鈴鹿市の出身で海の近くに住んでおりましたので、米沢の景色がとても新鮮です。毎日大学の窓から眺める山々を彩ったすばらしい紅葉に感動しています。

私は臨床栄養学分野の授業を担当しています。前職は栄養士養成校に勤務しておりましたが、長年、病院の管理栄養士として患者様の栄養指導、給食管理、栄養管理の仕事に携わってきました。病院勤務の経験から感じた管理栄養士としての必要なスキルは、専門的な知識とそれを活かすことのできるコミュニケーション能力と考えます。対象者の健康を維持・支援するためのより良い栄養管理を行うためには、人対人であることを意識することも大切です。授業では病院で培った経験や学んだことを分かりやすく、学生さんたちに伝えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

本学学生の「食料支援事業を実施しました！」

松川コミュニティセンター様と本学の共催で、地域の皆様から食料等の寄付を募り、約17トンの物資をいただきました。11月4日(木)・5日(金)に希望する本学の学生415名に配布いたしました。また、地域の皆様や教職員からの寄附金や日本学生支援機構「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」から支援金をいただき、食品スーパーの商品券2000円分を併せて配布いたしました。

食料等の仕分け作業には学生自治会、ボランティアサークルの学生や本学同窓会さわらび会の皆様からも御協力いただきました。本事業へ関わっていただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。温かい御支援大変ありがとうございました。

学生からの感想

☆温かいご支援ありがとうございました。皆さんのおかげで大学生活を送ることが出来ることに感謝の気持ち忘れず頑張っています。

☆コロナ禍で大変な中、食糧支援して下さいありがとうございます。将来、私も誰かのためになれる活動に積極的に参加したいと思いました。

☆たくさん食料を支援していただき、ありがとうございました！大切に消費させていただきます！



実習を終えて

臨地実習(病院)を終えて



山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部 健康栄養学科
四年 渡辺 春菜

私は、公立置賜総合病院で実習をさせていただきました。実習のなかで印象に残っているのは、実際の患者さんに向けた糖尿病教室の実施です。指導媒体作成や教室の実施から、指導者が一方的に話すのではなく、患者さん自身に考えてもらうことが大切であると学びました。患者さんが自ら得た気付きや学びは、退院後の食生活の改善につながります。病院管理栄養士として仕事をするうえでは、臨床に関する知識をつけることはもちろん、患者さんの行動変容を促せるような指導技術を身につけることが大切であると実感しました。実習での経験を活かし、対象者が主体的に考えられるような指導ができる管理栄養士となれるよう、今後も努力していきます。

臨地実習(公衆栄養学)を終えて



山形県立米沢栄養大学
健康栄養学部 健康栄養学科
四年 日下部 茜

庄内保健所で五日間実習をさせて頂きました。実際に保健所の先生方からお話を伺い、行政管理栄養士の役割について深く理解することができました。特に印象に残った活動は、災害時の管理栄養士の役割についての話し合いです。災害が発生した際に保健所の管理栄養士として何ができるのかをグループで話し合いました。災害のために準備したことが全てできるとは限りませんが、日頃から訓練をしていくこと、周りを巻き込み連携することが大切だとわかりました。

この実習を通して、人々の健康増進を目指すには専門性を活かしながら周りと連携することが大切だと感じました。社会に貢献できる管理栄養士になれるよう、更に知識を深めていきたいです。

憧れの教壇に立って学んだこと



山形県立米沢女子短期大学
国語国文学科
二年 丸山 愛加

今春、出身中学校で三週間の教育実習をさせていただきました。一教師という職業を夢にしている憧れの場所に立つことは大きな憧れでした。その初めて成り立つ一歩は、授業は生徒が主体的に教えることではなく、生徒が発信する意見や表情など一つ一つが授業を作っていくものでした。初めての授業で緊張していた私にとって、生徒達の存在が大きな支えとなりました。実習二週目にコロナウイルス第四波の影響で休校となり、生徒と会えない日々でも生徒を思い浮かべると元気が湧き授業準備に励むことができました。短大の先生方の細かなご指導、実習先での先生方の熱いご指導、そして何よりも頑張る生徒達、沢山の先生方に様々な面で支えをいただきました。教壇に編入が決まり、この学びを活かして、将来あの教壇に立てるよう今後も頑張りたいと思います。

博物館実習を終えて



山形県立米沢女子短期大学
日本史学科
二年 鈴木 結依

九月上旬に秋田県立博物館で六日間実習をさせていただきました。実習では人文系、自然系の資料の取り扱い方、展示手法、教育普及や広報活動などを学びました。普段は見られない展示替えの様子や、収蔵庫の中の様子など見学でき、博物館の実情について知ることが出来ました。

博物館は生涯学習の場として人々の学びに大きく貢献しており、学芸員はその学びと、日本の保存すべき文化や伝統を支える存在だと感じました。現在コロナ禍のため来館者や体験学習の機会が減っており、博物館経営は苦しい状況にあります。そんな中だからこそ、時代に合わせ博物館の在り方も変化していくかなければならぬと実習を通して感じることが出来ました。自分が学芸員の立場になった際に、臨機応変に対応出来るかどうか考えさせられる機会でした。

インターンシップを終えて



山形県立米沢女子短期大学
国語国文学科
一年 北山 泉祐

八月十六日から十八日の三日間、市立米沢図書館にてインターンシップを行いました。正直行く前はとても緊張していましたが、職員の方々が気持ちの良い挨拶にて温かく迎えて下さったため、緊張が和らぎ、落ち着いて参加することができました。

資料の整理やカウンターの仕事、一般特集の準備など、沢山の仕事を体験させていただきました。三日間を通して、「人との関わりが大切だ」と感じました。利用者とのコミュニケーションはもちろんですが、職員の方々もお互いに声をかけ合っていて、とても活き活きとした職場の雰囲気を感じました。また、私にも気づいて声をかけてくださり、職員の方々の温かい気持ちを感じ、とても嬉しい気持ちになりました。

この経験をこれから始まる就職活動に活かすとともに、司書資格取得のため、日々の授業に一杯取り組みたいです。

公務員インターンシップを振り返って



山形県立米沢女子短期大学
日本史学科
一年 中平 萌瑛

私は8月に岩手県の陸前高田市役所で火曜日から金曜日の4日間と月曜日から水曜日までの3日間、合計7日間インターンシップを行ってきました。この時期は正直に言うと、民間の会社で働くか公務員になるかで迷っていました。

公務員の仕事、特に震災を経て市民のために働く地元公務員の方々の苦労を知りたいと思いました。7日間、配属された観光交流課のFacebookの取材編集更新、震災遺構の見学、お仕事の同行などたくさん経験をしました。この出来事を通して、文書の作成過程において長すぎず短すぎず魅力を伝えるPRの大切さを学ぶことが出来ました。今回学んだことを生かして、卒論の文書作成はもちろん、履歴書の作成時にも役立ってほしいと思います。

介護等体験を終えて



山形県立米沢女子短期大学
英語国文学科
二年 高橋 侑希

十月に介護老人保健施設で五日間の実習をさせていただきました。私が担当した認知症のある利用者さんの介護は、想像していた以上に難しかったのですが、会話をした際、話す内容に笑顔で反応してくださり、「ありがたう」と声を掛けていただいた時はとても嬉しかったです。認知症のある方の介護は、それぞれの個性や生活リズムに合わせた個別のケアが多くなるので、より慎重に介護をする必要があると感じました。

この実習を通し、介護の難しさだけでなく、常に相手を敬う気持ちと思いやりの心をもって介護をすることの大切さを学びました。また、強い責任感をもって仕事に取り組む重要性についても勉強になりました。この実習で得た「誰に対しても、思いやることを大切に」を今後の生活に生かしていきたいです。

市民バス料金助成

大学法人及び教育振興会では、市民バスを利用する学生を対象として通年、助成を行っております。100円券11枚つづり、200円券11枚つづりの二種類の回数券について購入代金の5割を助成するものです。

主に電車通学者が米沢駅と本学との間、朝は一時限目の講義に間に合うように、帰りは4時限目終了後直ちに乗れるようにバスダイヤが組まれています。その他にも学生が市民バスを利用する際には活用できます。

回数券の販売は、本学同窓会「さわらび会」に委託しており、大学内購買部にてお求め下さい。

学生がこの助成制度を有効活用し、通学等の安全確保に努めていただけますよう、会員の皆様からもご指導をよろしくお願いたします。

